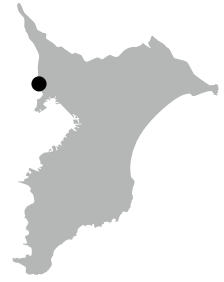


千葉歴史の散歩道

千葉県の旧石器発掘の“嚆矢”

～市川市丸山遺跡～

千葉県教育庁教育振興部文化財課埋蔵文化財班班長 **ながつか しゅんじ** 永塚 俊司



千葉県の北半エリアは、平坦な下総台地が広がり、日本列島で最大面積を誇る関東平野の一角を占める。旧石器時代はいわゆる「氷河期」にあたり、現在より寒冷・乾燥の気候であった。最寒冷期（約28～25万年前）において、平均気温は6～8度低く、海水面は現在よりも120m以上低下していたといわれている。「氷河期」において東京湾は完全に陸地で、その中央を流れる川は、江戸期の東遷前の利根川や多摩川などが合流しながら、今の三浦半島のあたりで、太平洋に注いでいた（古東京川）。そのため下総台地は相対的に海拔150mまで上昇し、植生を含め、現在とは異なる景観が広がっていた。

下総台地では旧石器時代の人々が使った石器や石器を作る際に飛び散った石のかけらが多く見つっている。これまでの調査によって、千葉県では1,000か所を超える旧石器時代の遺跡が見つっているが、その先駆けとなったのが市川市の丸山遺跡である。

丸山遺跡は市川市国府台4丁目にあり、下総台地の西端、市川市と松戸市の境界に近く、江戸川に面した標高25mの舌状台地の先端にあった。

1949（昭和24）年の群馬県岩宿遺跡の発掘によりローム層中から石器が見つかり、日本において初めて旧石器時代の存在が確認された。丸山遺跡は1954（昭和29）年に市川市教育委員会から古墳の調査を依頼された明治大学により、千葉県で初めて本格的な旧石器時代の発掘調査が行われ、黒曜石をはじめとする石器の集中地点が見つかったのである。

千葉県では地表面から約2m掘削するだけで、古くは3万数千年前に遡る石器群が見つかる。富士山など火山灰の給源が近い神奈川県相模野台地では同時期の石器群を見つけるには約8～9m掘らなければいけないことを考えると、2万年以上の旧石器時代の歴史が「ギュッ」と凝縮しているのが、下総台地の特徴である。発掘調査によって多くの旧石器が発見されやすいという理由もそこにある。

現在、丸山遺跡は住宅地となっているため広く周辺を見渡すことはできないが、江戸川に面した堤防から、旧石器時代の人々が見たであろう当時の景観を想像してみてもいいだろうか。出土した石器は現在、市立市川考古博物館で常設展示されているので、博物館へもぜひ足をお運びいただきたい。



丸山遺跡の位置
(千葉県HP“ふさの国文化財ナビゲーション”より)



発掘当時の丸山遺跡
(市川市史より)



柳原水門近くの堤防から江戸川を望む現在の景観
(東京スカイツリーが見える)

千葉教育 菊 (No. 682) 令和5年10月26日発行

編集・発行 千葉県総合教育センター (代表) 鉄井 修一
〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13 TEL 043-276-1204
URL <https://www.ice.or.jp/nc/>
印刷所 千葉市療育センター いずみの家
〒261-0003 千葉市美浜区高浜4-8-3 TEL 043-216-2465